

## 岡山実験動物研究会の一年の足跡を顧みて

会 長 猪 貴 義

岡山実験動物研究会が、昨年の12月7日に発足して、早いもので一年が経過しようとしています。この間、常務理事、理事の諸先生方はもとより、会員並びに会員外の方々からも、絶えず、激励とご支援をいただき、なんとか、研究会としての体裁をととのえつつある現状にあります。このことは、本研究会設立の趣旨にご理解をいただき、本研究会の活動に参加していただいた多数の方々のご協力によるものです。本研究会が、今後、さらに、着実な発展をとげるよう祈念する次第です。

本研究会編集委員の方々のご努力により、ここに、「岡山実験動物研究会報第2号」を刊行する運びに至りました。この機会に、本研究会活動の一年をふりかえってみることにいたします。

**昭和57年12月7日：**岡山市桑田町、郵便貯金会館において、実験動物・動物実験に関係する有志26名による設立総会を開催。役員を含む総会案件事項について審議、承認。永井廣教授（岡山大・歯）による特別講演「実験動物における発生のひずみの技法別研究法」が行なわれ、ひきつづき、山下貢司教授（川崎医大）を座長として、「岡山実験動物研究会の今後のあり方」について討論。閉会后、同会場において懇親会。

**昭和58年4月30日：**岡山大学農学部において、「第2回岡山実験動物研究会」を開催。理事会において、研究会々則について審議、承認。特別講演として、土川清先生（国立遺伝学研究所、静岡実験動物研究会長）による「哺乳動物による変異原性試験」、猪 貴義（岡山大・農）による「実験動物研究における最近の話題」の2題がとりあげられ、活発な質疑応答が行なわれた。

**昭和58年9月30日：**重井医学研究所において、「第3回岡山実験動物研究会」を開催。理事会終了後、吉田俊秀先生（国立遺伝学研究所、細胞遺伝部長）編集による映画「染色体上に書かれたネズミの歴史」を上映。ネズミの新しい種の成立過程について、多大の関心と興味を与えた。ひきつづき、沖垣達先生（重井医学研究所、副所長）を座長として、館 鄰先生（東大・理）による特別講演「哺乳類発生学の基礎と応用」が行なわれた。哺乳類発生学の基礎から、最近話題となっている細胞融合、細胞工学、遺伝子導入までとりあげられた興味深い内容であった。

**昭和58年12月3日：**林原生物化学研究所、藤崎研究所において、「第4回岡山実験動物研究会」を開催。理事会終了後、特別講演として、栗本雅司先生（林原・藤崎研究所長）による「林原生物化学研究所の概要」、永井次郎先生（カナダ農商務省研究所、部長）による「実験動物の開発——特にその遺伝学的手法について」の2題がとりあげられた。永井次郎先生は、日本学術振興会の招へいを受けて来日中の、実験動物開発・改良に関する世界的権威者であり、先生を岡山にお迎えし、具体的、かつ、参考となるご講演を拝聴する機会を得たことは幸いであった。また、講演後、藤崎研究所の施設見学も行なわれ、極めて有意義の会であった。

以上が、発足一年目における岡山実験動物研究会活動経過のあらましである。一年を顧みて、予期以上の成果があげられたものと考え。このことは、始めに申しあげたように、本研究会の活動を積極的にご支援いただいた多くの方々のご協力のたまものである。本研究会は、今後、年3～4回の開催を目標として、講演会、研究発表会を中心として運営される計画である。実験動物、動物実験について興味ある話題が、つぎつぎに提供され、会員相互の活発な討論を通じて、問題の本質の解明と、その解決に会員一同協力してあたることができれば幸いと考え。終りに、会員各位のこれまでのご協力に対し厚くお礼申しあげるとともに、引続きご鞭撻をお願いする次第です。